

2022年度 事業報告書

自 2022年4月1日

至 2023年3月31日

2022年度5つのトピックス

1. DEAR 設立 40 周年を記念した事業を実施しました。「40 周年記念フォーラム&交流会」には約 100 名が参加し、「地域で広げ・つなげる開発教育 実践者に聞くリレートーク」(全6回)には延べ 132 名が参加しました。さらに、40 周年記念募金「未来につなぐ開発教育」では、94 名の方から約 128 万円のご協力をいただき、目標を達成しました。
2. DEAR のビジョン、ミッションを見直し、バリューを新設しました。さらに、開発教育の5つの目標も見直しました。
3. 12 年に一度開催される「第7回ユネスコ国際成人教育会議 (CONFINTEAVII)」が6月にモロッコで開催され、ALE プロジェクトメンバーの3名が日本代表として参加しました。文科省への提言や、会議の成果物を共有する全国ミーティングなどを開催し、70 名が参加しました。
4. 開発協力大綱の見直しに関して、『「開発協力大綱」の見直しにおける開発教育に関する要望書』を 38 団体の賛同と共に外務省に提出するとともに、政府や議員への政策提言活動を行いました。
5. d-lab2022 (第 40 回開発教育全国研究集会) は、オンラインで3日間開催しました。全体会は「変革に向けた学習をめざして—教育観の転換を考える」をテーマに行い、計 145 名が参加し熱く議論しました。また、4 年ぶりに「教材体験フェスタ」を対面開催し、全国から 102 名が参加しました。



認定NPO法人 開発教育協会(DEAR)

もくじ

事業の概要

- | | |
|------------------------|----|
| 1. はじめに～2022年度をふりかえって | 2 |
| 2. 各種事業報告 | |
| Ⅰ. ネットワーク事業 | 4 |
| Ⅱ. 実践・研究事業 | 6 |
| Ⅲ. 情報・出版事業 | 7 |
| Ⅳ. 人材育成事業 | 9 |
| Ⅴ. 政策提言事業 | 11 |
| Ⅵ. その他の事業 | 12 |
| 3. 組織運営に関する報告 | |
| 1) 会報「DEAR ニュース」の編集・発行 | 13 |
| 2) サポーターの募集 | 13 |
| 3) クラウドファンディングの実施 | 13 |

処務の概要

- | | |
|--------------------------|----|
| 1. 会員に関する事項 | 14 |
| 2. 役員に関する事項 | 14 |
| 3. 会員総会に関する事項 | 15 |
| 4. 理事会に関する事項 | 15 |
| 5. 評議員会に関する事項 | 15 |
| 6. 2020年度事業評価・2021年度計画会議 | 15 |
| 7. 理事合同合宿（R-CAMP） | 15 |
| 8. 各種委員会に関する事項 | 16 |
| 9. プロジェクト・チームに関する事項 | 16 |
| 10. 職員に関する事項 | 16 |
| 11. インターン・ボランティアに関する事項 | 16 |
| 12. 会員団体に関する事項 | 17 |

資料編

- | | |
|-----------------------|----|
| 資料 1. メディア掲載・取材協力など | 18 |
| 資料 2. 名義後援・協力の実績一覧 | 19 |
| 資料 3. 他団体への賛同・協賛の実績一覧 | 19 |
| 資料 4. 講師派遣の実績一覧 | 20 |



「第7回ユネスコ国際成人教育会議」に参加しました



d-lab はオンラインで開催しました



40周年記念フォーラムを開催しました



教材体験フェスタは4年ぶりに対面で！

1. はじめにー2022年度をふりかえって

社会の大きな動きの中で

2019 年末に発生した新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は収束の兆しを見せ始めましたが、この間、世界の貧困層は増加し、経済格差は拡大し、人権侵害やジェンダー不平等などの社会的不公正はより深刻になっています。

気候変動への意識と対策は十分とは言えず、世界各地で深刻な影響が出ていますが、その被害は、特に、途上国や立場が弱い人々に集中しています。

世界の共通の目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成は、かなり厳しい状況ですが、より公正で持続可能な社会をつくるためには、現在の社会の構造や教育のあり方、私たち自身の開発観を見直し、どのような社会をつくりたいのか、そのために何をするのか、広く議論を進めていく必要があります。

国内においても貧困や経済格差、教育や生活、医療の保障は大きな課題になっています。また、移民、難民として来日する外国人への人権侵害も深刻です。

これまで通りに経済を優先し、環境や資源、労働力の搾取や、競争を強化し格差を拡大する社会ではなく、人権が尊重され、多様性が保障され、資源の公正な分配と対話を通して支えあう、持続可能な社会づくりが求められています。

さらに、子どもだけでなく、私たち自身が主体的な学習者であり続けられるように、教育を捉えなおしていく必要があります。

2022 年 12 月に DEAR は 40 周年を迎え、会員の皆様と、これまでの歩みやこれからの展望を共有し、考える機会となりました。さらに、ビジョン、ミッションを見直し、バリューの新設などをすすめました。

「知り・考え・行動する『グローバル・シティズンシップ』を育む」ことを目標に、引き続き開発教育を広め・深めていきます。

今年度は、新中期方針・重点事業に基づき、事業を実施しました。昨年度に引き続き、COVID-19 感染拡

大防止のために、職員は在宅勤務に切り替え、事業は主にオンラインで実施しました。後期より、徐々に、対面の事業も始め、講師派遣や教材体験フェスタなどは、対面で実施しました。

中期計画の実施報告

2022 年度は、「2022-26 年度 中期重点方針・中期重点事業」1年目の年となりました。

<2022-2026 中期重点方針>

**方針1. 開発課題をわたしたちの課題として捉え考える
市民性・公共性の追求**

**方針2. 教育者中心から学習者中心の教育へ教育観の
転換に向かう**

<2022-2026 中期重点事業>

1. 開発課題（ジェンダー・貧困など）と開発教育に関する研究会の実施
2. 成人教育。社会教育としての開発教育の推進
3. 開発教育ファシリテーション（対話）の再考・議論の促進
4. 教育政策に関する調査・ネットワークづくり
5. 組織基盤強化

重点事業1では、「開発」の意味や望ましいあり方を問い、多様で複雑な「開発」課題を認識し、それらの理解を深めることや、課題達成に向けた行動を促していくために、「市民性」や「公共性」に関する議論を広く提案していくことを目指しました。

SDGs研究会では、「DEAR カレッジ」において、開発課題をテーマとして学ぶのではなく、自らの課題として捉え、様々な意見の人と、「市民性」や「公共性」の視点で対話をする場の設定を試みました。

ジェンダー研究会では、開発教育の教材や実践をジェンダーの視点で分析したり、教育の様々な要素におけるジェンダーの主流化について検討したりしました。

重点事業2では、成人教育・社会教育の観点を持った開発教育活動の実践のあり方を広く共有することや、

大人が学び続けられる環境づくりや教育保障と、人々が市民的な力を得ることで社会が変わるような教育の議論・提案をし、地域における実践共有や、政策提案をするネットワークを構築することを目指しました。

ALE プロジェクトでは、「第7回国際成人教育会議」の成果文書の共有や、文科省への政策提言を行いました。さらに、全国の成人教育・社会教育の好事例を収集し、意見交換を行いました。

重点事業3では、参加体験型の学習・教育方法の普及推進にとどまるのではなく、管理・伝達・誘導型の教育観を問い直し、学習観を持つことや、子ども若者と大人の主体的な学習のあり方と、それを支える教育や学校のあり方や役割を、広く議論し共有していくことを目指しました。

開発教育ファシリテーション講座では、参加者が自分のファシリテーションを振り返り、自分なりの開発教育ファシリテーションを考えることができました。昨年度の修了生が講座の担い手として協力してくれて、d-lab 分科会の企画、運営にも積極的に関わってくれました。研究会においても、開発教育ファシリテーションに関する議論が進んでいます。

重点事業4では、開発教育実践者や市民組織と協力して、国内の教育政策への提案を行うことや、全国の開発教育実践者が開発教育やESDを実施しやすい環境をつくるために、政府や自治体行政との対話の場を広げることを目指しました。

とくに、SDGs実施指針、次期教育振興基本計画や、開発協力大綱の見直しなどに関して、他団体や市民社会ネットワークとも協力し、積極的に政策提言活動を行い、一部文言の反映などにもつながりました。

重点事業5では、財政基盤を安定させ、広く信頼を得て、自立した組織になるために、経営計画をたて、ファンドレイジングに力を入ると共に、事務局や理事会の役割の整理、職員の能力強化などを行うことを目指しました。

40周年記念募金では、「40周年記念募金等検討委員会」を立ち上げ、委員のアイデアを反映し、128万円を募ることができました。そのほか、新しい財源確

保のための協議を進めることができました。

一方で、残された課題もあります。開発教育とは何か、グローバル・シティズンシップとはどういうものなのか、全国の実践を開発教育やグローバル・シティズンシップの視点で振り返るためにはどのような仕組みが必要か、などについて、会員とともに、議論を進める必要があります。また、財政基盤安定化のために協力者を拡大していくことの重要性が共有されました。

参加を重視した事業運営

また、年度当初に計画した6つの領域「Ⅰ. ネットワーク事業」「Ⅱ. 実践・研究事業」「Ⅲ. 情報・出版事業」「Ⅳ. 人材育成事業」「Ⅴ. 政策提言事業」「Ⅵ. その他の事業」においては、概ね事業計画通りに各種事業を実施することができました。また、40周年基金を活用した40周年記念事業には★をつけました。

参加を重視するという点では、ウェブにも掲載している『「みんなの参加」のためのDEARの取組』にもあるように、あらゆる人々が安心して参加するための学びの場づくりをすすめています。

具体的には、講座やセミナーにおいて難聴者のための要約筆記や視覚障害を持つ会員には、会報や機関誌のテキストを毎回データで送付しています。このような取組を広く伝え、他団体へも伝えていきたいと思えます。

尚、各事業にかかわったメンバーについては、16～17頁をご覧ください。

40周年記念募金 DEAR40周年記念基金

未来につなぐ 開発教育

Pay it Forward!

教材や講座を未来にプレゼントする

寄付プロジェクト

実施期間 2022年12月～2023年3月末日

目標金額 120万円

設立40周年を記念して募金を開始します！
開発教育を未来につなぐために、教材やワークショップなどをプレゼントできる寄付プログラムです。開発教育に思い入れがある方が最大までよろしくご寄付ください。ご寄付の金額に応じて、お名前を募集させていただきます。

遠本 浩之 (Tomoto Hiroshi)

岡崎 真穂子 (Okazaki Makiko)

片岡 直樹 (Katagami Naoki)

詳細は 詳細は

2. 各種事業報告

I. ネットワーク事業

ネットワーク事業は、国内外の開発教育及びESD関係者と実践経験を共有し、開発教育の普及、深化をはかることを目的としている。今年度は、昨年度に引き続きオンラインでプログラムを実施するほか、第7回ユネスコ国際成人教育会議に参加するとともに、担い手との連携・強化を図った。

1) 国内ネットワーク事業

① 地域ネットワーク会議

<地域ネットワーク会議>

昨年の参加団体に加え新規団体にも呼びかけて「地域ネットワーク会議」を開催した。参加者の25%が初参加の方だったこともあり、地域での活動状況の共有を行った。今後も年1回程度継続開催していく。

<概要>

- ・ 日時:2023年3月11日(土)13:00~16:00
- ・ 会場:オンライン
- ・ 目的:地域の実践を共有・近況報告することで、地域間およびDEARとのつながりを強化する。
- ・ 内容:近況報告、地域における開発教育の実践と今後の展開について共有した。
- ・ 参加者:11団体、16名
- ・ DEAR理事・評議員・職員・ボランティア:15名

<地域で広げ・つなげる開発教育 実践者に聞くなりレートーク> ★40周年事業

昨年の「地域ネットワーク会議」の振り返りを受け、また、40周年記念イベントとして、全国6名の実践者の方から「地域でどのように開発教育を展開してきたのか」を中心に、その歩みをじっくり聞くトークイベントを開催した。「話し手」と「聞き手」の対話形式が好評であった。また、新旧のメンバーの交流の場となった。

<概要>

- ・ 日程:6月~11月・全6回
- ・ 各回2時間+交流会 30分
- ・ 会場:オンライン
- ・ 参加者:延べ 132名

日程	話し手・聞き手
第1回 6月8日	話し手:岩崎裕保さん (関西 NGO 協議会) 聞き手:七宝可奈子さん (DEAR 会員)
第2回 7月9日	話し手:玉城直美さん (沖縄 NGO センター) 聞き手:新膳朋子さん(同上)
第3回 8月26日	話し手:阿部眞理子さん(IVY) 聞き手:渡邊太さん(FKG 山形)
第4回 9月9日	話し手:小泉雅弘さん (さっぽろ自由学校「遊」) 聞き手:貞広康子さん(教員)
第5回 10月6日	話し手:磯野昌子さん(かながわ開発教育センター(K-DEC)、逗子フェアトレードタウンの会) 聞き手:牧山達雄さん(横浜市立小学校教諭、かながわ開発教育センター)
第6回 11月3日	話し手:大森容子さん (滋賀県国際協会) 聞き手:桂武邦さん (元 JICA 滋賀デスク)

※動画と採録はYoutubeおよびnoteに掲載した。

② 成人学習・教育(ALE)プロジェクト

2022年6月に、第7回ユネスコ国際成人教育会議(CONFINTEAVII)が開催され、文科省への提言(詳細は政策提言事業参照)や、第7回会議の成果物の論点を共有する全国ミーティングを開催。国内での成人学習・教育の推進のために、以下の活動をおこなった。 ※助成:地球環境基金

<CONFINTEAVIIへの参加>

142カ国のユネスコ加盟国からオンラインでの参加者を含め1,000名以上が参加。ALEプロジェクトメンバーのうち3名が日本代表団として参加した。日本政府からは文部科省の筆頭局である総合教育政策局の社会教育振興総括官と生涯学習推進課長補佐がオンラインで参加、ユネスコパリ本部常駐代表部の参事官が対面で参加した。

<概要>

- ・ 「第7回ユネスコ国際成人教育会議(CONFINTEAVII)
- ・ 日時:2022年6月15日~17日

- ・ 会場:マラケシュ(モロッコ)
- ・ 参加者:近藤牧子、三宅隆史、小荒井理恵、中村絵乃、伊藤容子(ALEプロジェクトチーム)

＜フォローアップミーティングの開催＞

「第7回ユネスコ国際成人教育会議とマラケシュ行動枠組み—今後12年の社会教育・成人教育の展望(CONFINTEAⅦ フォローアップミーティング)」

- ・ 日時:2022年10月1日(土)13:00-16:00
- ・ 会場:オンライン
- ・ 参加者:70名程度(社会教育実践者・研究者、NGO/NPO関係者、テーマに関心のある方)
- ・ 内容:
 1. 全体挨拶
 - ・ 湯本浩之(DEAR代表理事)
 - ・ 青柳茂(ユネスコ・アジア太平洋地域教育事務所 所長)
 2. 主旨説明・会議概要について
 - ・ 近藤牧子(DEAR副代表理事、日本社会教育学会常任理事)
 3. マラケシュ行動枠組みについて
 - ・ 三宅隆史(教育協力NGOネットワーク(JNNE) 事務局長)
 4. 日本政府の関りについて
 - ・ 中村崇志(文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課 課長補佐)
 5. 会議のフォローアップとアクションについて
 - ・ 論点提示:近藤牧子、三宅隆史
 - ・ コメント:大安喜一(ユネスコ・アジア文化センター、基礎教育保障学会)「マラケシュ行動枠組みを踏まえたリテラシー調査の役割と意義」の動向などから
 - ・ 応答: 中村崇志(文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課 課長補佐)
 6. グループディスカッション
 7. 今後について
 - ・ マラケシュ行動枠組みの周知について
 - ・ 次期「成人学習・教育のグローバル・レポート(GRALE)」対応について

＜プロジェクト会議の実施＞

- ・ ALEプロジェクト全体会議(7回)
- ・ チーム会議(5回)

＜ウェブページの運営＞

CONFINTEAⅦに関連する公式文書や市民社会の動き、成人学習・教育に関する現地訪問などのレポートを通じて、日本におけるALEの取り組みの活性化とのため、情報を掲載・発信している。

＜地域訪問＞

「地域におけるESDや市民参加」の取り組みのヒアリングと情報収集を行い、ネットワークの強化を図った。2022年2月に実施したナショナルミーティング登壇者をはじめ、成人教育を推し進めている団体を訪問した。訪問先:

- ・ 1月26日 神戸YMCA、認定NPO法人女性と子ども支援センター(ウイメンズネット・こうべ)
- ・ 1月27日 鶴見橋読み書きありがとうの会
- ・ 3月19日 沖縄県那覇市若狭公民館
- ・ 3月20日～21日 沖縄県那覇市繫多川公民館、まちなか研究所わくわく、珊瑚舎スコーレ

③学びあいフォーラム

各チームに分かれ、それぞれの関心に基づいて活動を実施し、ブログやfacebook等で発信した。また、過去の活動や議論の記録のアーカイブ化を進めている。

＜座談会の実施＞(全2回)

内容と目的:話題提供者の実践を中心に、参加した人たち同士が座談会形式で語り合うことで、具体的な地域・地域実践・実践者から学ぶべきことや、地域・地域実践における開発教育の意義や可能性、後の(地域)の開発教育実践の描き方などを浮かび上がらせていくことを目的に実施。これらを通し、それぞれの実践者のコメント開発教育を再考するための論点・キーワードの整理を進めていこうとしている。

＜学びあいサークル＞

「地域を歩く、話す、つながる」の開催(全8回)

内容と目的:自分の地域を歩いて、気づいたり発見したりしたことを共有し、それぞれの方法で地域とつながってみたいことを目的に実施。

- ・ 会場:オンライン(zoom ミーティング)
- ・ 参加者:6名

＜コーディネーター会議の実施＞

コーディネーター全体会議(全1回)を実施し、各チームの進捗共有を中心に行った。

2)海外ネットワーク事業

①ASPBAEのCONFINTEA7に向けた勉強会等への参加

DEARが団体会員になっているアジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE/アスベ)が開催した、CONFINTEA VIIに向けた以下のイベント等にALEチームメンバーが参加し、情報共有を行った。会議概要および報告内容はスタッフ・ブログに掲載。

- ・ 8月25日-26日 Regional Workshop on Adult Learning and Education (ALE) Advocacy Virtual Platform

ASPBAEのBLDCへの参加

ASPBAE主催のリーダーシップ育成研修(BLDC; Basic Leadership Development Course)に岩岡職員が参加した。研修のテーマは、「教育の公平性を高めるためのTALE(変革のための成人学習・教育)」で、15ヶ国から33名(講師含む)が集まり、各国の教育に関する課題の報告を交えながら、成人学習、生涯学習、シティズンシップ教育などについて学んだ。

＜概要＞

- ・ BLDC Basic Leadership Development Course
- ・ 主催:ASPBAE
- ・ 日時:2022年9月16日～25日
- ・ 会場:ハノイ(ベトナム)

②ESD alliance プロジェクトへの参加

DVV International (ドイツの成人教育協会)主催の標記プロジェクトに伊藤職員が参加した。Whole Institute Approachの観点で活動を実施・

ふりかえり、それぞれの経験に基づき、持続可能な教育活動をもたらす組織のコンセプトやグッドプラクティス示した成果物を共同で作成している(2024年度完成予定)。本年度は、スタディーツアーおよび顔合わせのため、スウェーデンの成人教育施設を訪問し、制度や各施設の取り組みについて学び、意見交換を行った。

本プロジェクトには、世界各地から12の成人学習・教育機関がパートナー団体として参加しており、日本、オーストリア、フィリピン、スイス、スロベニア、南アフリカと、ドイツの6つの成人教育センターで構成されている。

③GENE グローバル教育ヨーロッパ会合への参加

Global Education Network Europe (GENE)主催で「European Congress on Global Education in Europe to 2050」がダブリンで開催され、近藤副代表理事が参加した。会議では、「グローバル教育宣言2050」が発表され、ヨーロッパ圏外の「グローバル・クリティカル・フレンド」として宣言に関する意見などを共有した。

その後、アイルランドの開発教育協会(IDEA)やAONTASなどへの訪問、情報共有を行った。

＜概要＞

- ・ European Congress on Global Education in Europe to 2050
- ・ 主催:GENE
- ・ 日時:2022年11月3日～4日
- ・ 会場:ダブリン(アイルランド)

II. 実践・研究事業

開発教育の研究実践活動の質的な深化や向上に向けて、関連する教育的課題や今日的課題などに関する調査研究活動を行った。機関誌は40周年特集号として「開発教育 この10年、そして次の10年へ向けて」をテーマに特集を組んだ。

1)「開発教育研究会」

①「SDGsと開発教育研究」部会

2020年度に発行したハンドブックをテキストに、各

テーマへのより深い理解を促すことを目的に第2期 DEAR カレッジを開催した(詳細は10頁参照)。また、SDGs 学習がどのように展開されているか現状を把握するため、アンケート調査を実施し、引き続き「2030 アジェンダ」の理念の理解を促し、授業づくりなどへのサポートの必要性が見えた。

<研究会の開催(全10回)>

DEAR カレッジの検討および運営、SDGs 学習に関するアンケートを実施し、結果に関して、分析・検討を行った。

②「開発教育ファシリテーション研究」部会

開発教育のファシリテーションについて知見を深めながら、論点を整理してきた。研究会は、2022年度9回開催した。

10月～11月にかけて全6回の「開発教育ファシリテーション講座2022」を実施した(9頁参照)。

その後、参加者へのヒアリングを行い、今後の講座への反映や、開発教育のファシリテーションについて議論を深めている。

③「ジェンダーと開発教育研究」部会

ジェンダーを巡る様々なトピックや問題について、メンバー間で知見を共有しながら、ジェンダー教育の実践を重ねてきた。研究会は、2022年度に全10回開催した。

開発教育教材をジェンダーの視点から見直す検証を行い、d-lab2022で分科会を開催した。今後は、ジェンダーレンズを持ちながら開発教育を実践するためのガイドライン・教材作成を検討している。

2) 機関誌『開発教育』の編集発行 ★40周年事業

機関誌『開発教育』第69号を発行した。40周年特別号として、特集は「開発教育 この10年、そして次の10年へ向けて」とした。本号では、近年の国内外の社会の変化を概観しながら、DEARのこれまでの活動をふりかえり、今後10年を展望することをねらいとし、学校やNGO、地域での開発教育の実践などを掲載している。

<概要>

- ・ 特集:「開発教育 この10年、そして次の10年へ向けて」
- ・ 発行:2022年12月10日
- ・ 発行部数:900部
- ・ 価格:2,200円(税込み)

3) d-lab2022(第40回開発教育全国研究集会)の開催

40回目となる今回は、昨年に引き続き全面オンラインで開催した。全体会、自主ラウンドテーブル(11コマ)、実践事例・研究報告(2コマ)、分科会(6コマ)を通して、開発教育・ESD・国際理解教育等に関わる実践者の経験交流・意見交換を中心に据えながら、議論を深めた。

全体会では、ゲストに奈須正裕氏(上智大学総合人間科学部教授)と近藤牧子氏(DEAR副代表理事)を招き、「変革に向けた学習をめざして—教育観の転換を考える」をテーマに参加者と共に議論した。

<概要>

- ・ 日程:2022年8月5日(金)、6日(土)、7日(日)
- ・ 会場:オンライン
- ・ 参加者数:145名(関係者を含む)
- ・ 主催:(特活)開発教育協会
- ・ 後援:文部科学省、外務省、環境省、消費者庁、国際協力機構、東京都教育委員会、国連広報センター、ESD活動支援センター、SDGs市民社会ネットワーク、関西NGO協議会、国際協力NGOセンター、自治体国際化協会、ユネスコ・アジア文化センター

Ⅲ. 情報・出版事業

新規教材等の作成・増刷、ウェブサイトやSNSを活用した情報発信を行った。

1) 新規教材図書企画編集と制作発行

開発教育に関連する次のような新規の教材や図書の企画編集や制作発行や増刷をおこなった。またそのために、引き続きその財源の確保に努めた。

① 教材「18歳成人とキャリア教育」発行の準備

★40周年事業

18歳成人制度の施行を契機に、主体的な市民として「おとなになる」に向き合うことを目的に発行の準備を行った。「はたらくこと」を自分たちの地域を拠点に考え、国内外の多様な人たちのエピソードから働き方の多様性を知り、市民としての社会参加を模索することを中心とした内容となっている。

<概要>

- 発行:開発教育協会
- タイトル:『18歳成人とキャリア教育:グローバル社会で「おとなになる」を考える』
- 発行日:2023年4月20日
- 判型・頁数:A4判・76頁
- 発行部数:500部
- 価格:¥1,650(税込み)
- 対象:中学生以上

2) 出版物販売

当会発行の教材・図書資料をインターネット等を通じて販売した他、関係団体の発行図書の受託販売、教材カタログやAmazonなどの販路で販売を行い自己財源の強化を図った。

<書籍売り上げベスト5>

- 『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら 第6版』 540冊
- 『新・貿易ゲーム』 255冊
- 『服・ファッションー開発教育アクティビティ集5』 242冊
- 『プラスチックごみー開発教育アクティビティ集4』 190冊
- 『SDGs学習のつくりかた 開発教育実践ハンドブックII』 132冊

3) 広報資料作成

①ウェブサイトの運営 <https://www.dear.or.jp/>

開発教育ポータルサイトとしてウェブサイトでの情報発信を行った。よく読まれているのは「教材」「イベント」「参加型学習」関連のページである。セキュリティ強化のためSSL化した。

- 75,683セッション 前年: 95,712

- 156,421 ページビュー 前年: 203,623
- 平均サイト滞在時間 01:57分 前年: 02:04分
- 新規セッション率 86% 前年: 86%
- PCユーザー58% 前年: 57%
- モバイルユーザー42% 前年: 43%

②DEARプラットフォームの運営

<http://platform.dear.or.jp/>

「学びあいフォーラム」事業の一環で、全国の開発教育の団体や実践、リソースを紹介するウェブサイトを2019年6月に開設した。

- 3,356セッション 前年:5,078
- 5,161 ページビュー 前年:9,512
- 平均サイト滞在時間 00:50分 前年:01:12分
- 新規セッション率 86% 前年:86%
- PCユーザー 55% 前年:52%
- モバイル 45% 前年:48%

③40周年特設サイトの新設 ★40周年事業

<https://ale-dear.net/dear40th/>

40周年を記念して、特設サイトを新設し11月に公開した。沿革や関連イベント、募金などを掲載した。



④スタッフ・ブログの運営

<https://dearstaff.blogspot.com/>

講師派遣レポートや事務局の日常業務等を不定期に掲載している。よく読まれているのは、講師派遣レポートである。

- 投稿記事:33本 前年: 25本
- 15,022セッション 前年: 13,691
- 23,121ページビュー 前年: 21,341
- 1.54平均ページビュー 前年: 1.56
- 新規セッション率89.7% 前年:88.6%



⑤Facebookページの運営



<https://www.facebook.com/ngoDEAR/>

2013年8月に全研広報用に開始し、9月末に公式Facebookページとしてリニューアルした。主催イベントや教材の紹介のほか、開発教育や国際協力に関連するニュースも配信している。閲覧数は一昨年来減少傾向にある。

- ・3月末の「いいね！」数:3,762(前年比+73)。
- ・3月末のフォロワー数:4,066(過去データ無し)

⑥メールマガジンの発行



<https://www.mag2.com/m/0000270703>

毎月1回のメールマガジンの発行を開始し、主催事業や資料の情報を発信した。3月末現在4,097名(前年比+146名)が登録している。

⑦ツイッターの運営



<https://twitter.com/ngoDEAR>

2011年11月16日にツイッターを導入(アカウント名は@ngoDEAR)。イベント情報や教材関連情報を中心にツイートしている。3月末のフォロワー数:1,513(前年比+74)。

⑧noteの運営



<https://note.mu/ngodear>

ニュースレター・チームの発案により2018年10月からページを開設し、ニュースレターや機関誌の記事を不定期に公開している。また、逝去された方の原稿や講演録も掲載している。

ページビューは4,611件(昨年5,526件)、スキは56件(昨年98件)、記事購入者は12件(@100円/昨年7件)。

⑨資料請求者への対応

ウェブサイト上から無料で資料請求を実施した。全国から48件(前年72件)の請求があり、うち1名(前年3名)の新入会があった。

⑩PR TIMESの利用

2018年度よりプレスリリース一括配信サービスPR TIMESの無償提供プロジェクトに参加登録し、不定

期で教材発行やイベント情報を掲載している。複数のウェブメディア等に配信されるため、露出効果が高い。

IV. 人材育成事業

開発教育の実践者を支援し増やすために、講師派遣事業や各種講座を行った。特に、気候変動やジェンダー、SDGs について、ファシリテーション講座など、多様なニーズに対応した。

1)講師派遣事業

政府機関・自治体・教育委員会・学校・大学・自治体国際化協会・NGOなどからの講師派遣依頼に対して、DEARの役職員等を講師として計43件135回派遣した。述べ参加者は約5,000名。

COVID-19感染拡大防止のため、オンラインが中心だったが、年度後半は、対面での対応も行った。依頼先は大学やNGO、JICAなどが多く、内容は各種ワークショップの他、ジェンダーや気候変動、SDGsをテーマにしたものなどが多かった。詳細は資料編(20頁～)を参照。

2)開発教育ファシリテーション講座

開発教育ファシリテーション研究会の研究をもとに、全6回の「開発教育ファシリテーション講座」をオンラインで開催し、13名が参加した。

前年に続き3年目の講座企画・開催となり、「開発教育ファシリテーション講座」の枠組みを修了生スタッフも交えて議論・改善をすることができた。

<概要>

- ・ 日程:10月～11月 毎週日曜日 全6回
- ・ 会場:オンライン
- ・ 参加者:13名

日程	テーマ
第1回 10月16日	私と開発教育とファシリテーション
第2回 10月23日	コミュニケーションの基本(1) 感情やニーズを把握し「開発教育観」 を聴いてみよう
10月30日	懇親会(自由参加)

第3回 11月6日	コミュニケーションの基本(2) 開発問題に合意形成は欠かせない!
第4回 11月13日	「問い」の視点を深めよう
第5回 11月20日	ファシリテーションを分析して実践に活かそう
第6回 11月27日	自分のファシリテーションを振り返る～ よりよい教育実践を創るために／修了式

3) 第2期 DEAR カレッジ SDGs 学習のつくり方 (テーマ編)

実践者が SDGs 学習を推進していくうえで、欠かせないテーマへの構造的な理解や多面的な理解を促すことを目的に第2期 DEAR カレッジを開催した。登壇者による講義と、それを元にした参加者どうしのディスカッションで構成し、33名が参加した。テーマへ気づきや、実践のふりかえりにつながる講座となった。

<概要>

- ・ 日程:6月～7月 22日(全7回)
- ・ 会場:オンライン
- ・ 参加者:33名

日程	テーマと講師
第1回 6月3日	「公正・共生・循環(総論)」 田中治彦(DEAR 理事/上智大学)
第2回 6月10日	「平和」 川崎哲(ピースボート共同代表/ICAN (核兵器廃絶国際キャンペーン)国際運営委員)
第3回 6月24日	「気候変動とエネルギー」 平田仁子(Climate Integrate 代表理事)
第4回 7月1日	「ジェンダー・セクシュアリティ」 村瀬幸浩(日本思春期学会名誉会員/ 一橋大学元講師)
第5回 7月7日	「格差」 井手英策(慶應義塾大学)
第6回 7月15日	「多文化共生」 孫美幸(文教大学)
第7回 7月22日	「SDGs 学習のつくり方」 近藤牧子(DEAR 副代表理事/早稲田 大学・非)

4) 各種講座

①「開発教育入門講座」

開発教育の基礎的理解を目的とした入門講座をオンライン・対面で開催した。毎月1回、計11回(8月はd-lab分科会を開催、2023年3月は教材体験フェスタにて実施)、約125名の参加者を得て開催した。

②教材体験フェスタ

教材の周知と販売、対面のイベント運営への移行を目的に4年ぶりに対面で開催した(COVID-19の感染状況によりオンライン開催への変更も検討しながら準じた)。参加者の25%が小中高校・大学生で、子ども・ユースの割合が多かった。また、対面開催は非常に好評であった。

<概要>

- ・ 日程:3月 26日(日)10時～18時
- ・ 会場:JICA 地球ひろば
- ・ 参加者:75名
- ・ 講師・スタッフ・ボランティア:27名

<プログラムと講師>

- ・ A1 開発教育入門講座・パーム油のはなし/
大野のどか・土戸友理香(入門講座チーム)
- ・ A2 難民/佐藤友紀(DEAR 副代表理事)・
中村絵乃(DEAR 事務局長)
- ・ A3 プラスチックごみ/加藤英嗣・中園真由美
(教材作成チーム)
- ・ B1 スマホから考える世界・わたし・SDGs/
佐藤友紀(DEAR 副代表理事)
- ・ B2 18歳成人とキャリア教育/近藤牧子・
田中治彦・松倉紗野香(教材作成チーム)
- ・ B3 気候変動/高階悠輔(DEAR 評議員)・
岩岡由季子(DEAR 職員)
- ・ C1 ワークショップ版・世界がもし 100人の村
だったら/西平久美子(DEAR 理事)・
八木亜紀子(DEAR 職員)
- ・ C2 豊かさと開発/近藤牧子(DEAR 副代表理
事)・中村絵乃(DEAR 事務局長)
- ・ C3 服・ファッション/磯野昌子・鈴木啓美(教材
作成チーム)

V.政策提言事業

中期重点事業4にもあるように、SDG4.7 だけでなく、SDG4を中心に、開発教育や ESD 実施のための提案をほかの市民団体やネットワークと連携・協力しながら進めた。

1) 行政に対する政策提言

①国際協力政策・援助政策に対する政策提言

SDGs 市民社会ネットワークの教育ユニットの世話人になることで、国内の教育問題に関する SDGs 政策への提言を行うことができた。

特に、日本政府の SDGs 実施指針が 2023 年に改定する見込みであることから、SDGs 市民社会ネットワークの呼びかけで、「次期実施指針に向けた SDG4 についての戦略会議」が9月 29 日に行われた。

JNNE と DEAR がそれぞれファシリテーターとなり、他の教育関連団体と共に、海外と国内の教育課題について協議し、提案を作成した。

また、「開発協力大綱」の見直しにおいては、「開発協力大綱見直しにおける開発教育に関する要望書」を作成し、38 団体の賛同と共に、外務省に提出したほか、「開発協力大綱改定に関する市民社会ネットワーク」との協力のもと、政府や議員への政策提言を行った。

②教育行政・教育政策に関する政策提言

文部科学省中央教育審議会でも検討されていた「次期教育振興基本計画」についてパブリックコメントが募集されたので、DEAR としても提出するとともに、広く意見募集を呼びかけた。

③成人教育に関する政策提言

第7回ユネスコ国際成人教育会議(CONFINTEAⅦ)に向け、文科省との関係を構築しながら、本会合への局長レベルの参加、および成果文書への市民社会の提案の反映のため対話を重ねた。

その結果、本会合へ文部科省の筆頭局である総合教育政策局の社会教育振興総括官と生涯学習推進課長補佐がオンラインで参加、ユネスコパリ本部常駐代表部の参事官が対面で参加した。

また、ICAE(国際成人教育協議会)の尽力もあり、成果文書である「マラケシュ行動枠組み」(MFA)には市民社会の提案が多く反映された。

<文科省との勉強会の開催>

- ・ 4月 11日 文科省訪問
- ・ 5月 12日 CONFINTEA に向けた打合せ
- ・ 6月 8日 CONFINTEA に向けた打合せ
- ・ 7月 11日 CONFINTEA 後の文科省との打ち合わせ
- ・ 8月 25日 MFA 翻訳と10月報告会について打合せ
- ・ 9月 28日 フォローアップミーティング打合せ

<提言書の作成>

- ・ 「マラケシュ行動枠組み」日本対処方針への提案
- ・ 「マラケシュ行動枠組み」日本語訳への提案
- ・ フォローアップミーティングへの登壇に関する提案

<国際会議への参加>

- ・ 6月 14日 CONFINTEAⅦ市民社会フォーラムへの参加
- ・ 6月 15日～17日 CONFINTEAⅦへの参加

2) キャンペーンへの協力

①教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)主催「SDG4 教育キャンペーン 2022」への協力

基礎教育を受けられない子どもたちや非識字の人々が世界中に多くいる現状に目を向け教育の大切さを世界中で同じ時期に考える、グローバルなキャンペーン。2016 年度より SDG4(教育目標)達成を目標に掲げている。

<概要>

- ・ キャンペーン日程:2022 年4月1日～5月 31日
- ・ 院内集会:6月6日
- ・ 文部科学省との面談:7月 14日
- ・ 外務省との面談:8月4日
- ・ 財務省・NGO 定期協議で提言:11月4日
- ・ 協力内容:事務局を担当し、会議運営、広報、会計、教材作成、政党アンケート実施、ロビイングな

どを実行員会メンバーと協力して実施した。

- ・ 参加者数:オンライン投票に 3,379 名の子ども・ユース・市民が参加した。

VI.その他の事業

1)受託事業

①外務省「NGO相談員プログラム」

外務省より標記プログラムを受託し、関東圏を中心に全国から開発教育や国際協力に関する幅広い相談を951件受けた。出張サービスは関東圏を中心に6件行った。また、SNSを通じて相談員制度に関する情報発信も行い、約8,206件のリーチ数であった。

②JICA NGO等提案型研修

当初募集される予定だった本事業の募集が今年度は延期されたため、事業は実施しなかった。JICA側からの過去の受託事業に関するヒアリングに協力したほか、NGO-JICA協議会などで、本事業の今後のすすめ方に関して提案を行った。

③聖心グローバルプラザ内「BE*hive」

聖心女子大学グローバルプラザ内に設置された展示・ワークショップスペース「BE*hive(ビー・ハイベ)」の展示を活用したワークショップの企画・運営等を行った。2022年度は「女性」をテーマに、装いに関連したプログラム開発を行った。

<概要>

聖心グローバルプラザ「BE*hive」

主管:聖心グローバル共生研究所

<業務内容>

A.ワークショップの企画

- ・ 展示を使ったワークショップの企画
- ・ ワークシート・プレゼン資料の作成
- ・ ワorkshop進行案・実施後のふりかえり・ワークショップの改善

B.ワークショップの実施

- ・ ワorkshop実施回数:36回(うち聖心女子大学学生向け22回)
- ・ 参加合計数:約841名(うち聖心女子大学基礎課程演習参加者約315名)

④角川ドワンゴ学園

学校法人角川ドワンゴ学園よりN/S中学高等学校の中高生を対象としたプログラム作成と連続講座「はじめての環境問題ワークショップ プラスチックから考える持続可能な未来」(5・6月)の企画・運営を行った。また、同講座のコンテンツを提供した(2月)。

⑤キッズニア

子どもたちが楽しみながら社会の仕組みを学ぶことのできる施設キッズニアで行われる子ども向けのジェンダー・ワークショップのオンライン・コンテンツに関して、助言を行った。

2)外部団体との共催・協力事業

①2022年度開発教育・国際教育セミナー

<主管:DEAR大阪>

(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センターが共催する、開発教育に関する基礎的理解を目的とした連続セミナーの企画・開催に協力した。

<開催実績>

- ・ 日程:2023年1月28日(土)
- ・ プログラム:身近な人とともに築く多文化共生社会 ～私の一歩～
- ・ 会場:大阪国際交流センター
- ・ 共催:(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センター
- ・ 協力:DEAR大阪
- ・ 講師:丸山まり子・佐藤友紀
- ・ 参加者数:30名

②Climate Reality Project(CRP) 教材作成への協力

気候変動対策に取り組む NGO・CRP より気候変動について日本の市民を啓発する資料・教材の開発の協力依頼を受け、昨年度より協議を重ねている。

2022年度はCRPが執筆した原稿を出版社の編集野に紹介し、書籍化の作業に協力した。

3. 組織運営に関する報告

1) 会報「DEAR ニュース」の編集発行

開発教育の関連情報をはじめ、DEARや各地の「担い手」などの活動状況を紹介することを目的とした会報を5回(4・6・8・10・2月)、各号900部を発行した。また、過去掲載の記事の一部をウェブメディアの「note」に公開し、会員以外の方にも読めるようにした(1記事100円の有料配信)。

号	特集
第206号 (4月発行)	d-lab2021全体会採録「この社会をつくっているのはわたしたち?『政治を語らないこと』を再生産しないために」
第207号 (6月発行)	「コロナ禍における『あしなが育英会』の活動」 川本淳(あしなが育英会広報部)
第208号 (8月発行)	「『琉球弧』で進む軍事化を考える」 池尾靖志(立命館大学非常勤講師)
第209号 (10月発行)	d-lab2022全体会採録「変革に向けた学習をめざして—教育観の転換を考える」
第210号 (2月発行)	「18歳成人と消費者市民教育」 柿野成美(法政大学大学院政策創造研究科准教授/消費者教育支援センター理事・主席主任研究員)

2) サポーターの募集

継続的に DEAR をサポートしてくれる人を増やし、組織強化につなげるために、2014 年 12 月よりサポーター制度(年 4,000 円以上の定額寄付制度)を開始し、募集をすすめている。今年度は、過去会員や研修会参加者、書籍購入者にメール DM を送ったり、会員継続の際の紹介など、サポーターへの依頼を行った。

3) 40 周年記念募金 ★40 周年記念事業

40 周年事業の一環として寄付キャンペーン「未来につなぐ開発教育」を実施した。「開発教育を未来につなぐために、教材やワークショップなどをプレゼントできるペイフォワード(Pay it Forward)な寄付プログ

ラム」として企画した。寄付者への直接のリターン(お礼の品)が無く、ペイフォワードを打ち出した初の取り組みだったが、目標を達成することができた。

2023 年度にプレゼントの応募受付および寄付者との交流会を開催する。

実施期間	12 月 1 日～3 月 31 日(4 か月間)
目標金額	120 万円
媒体	寄付プラットフォームを利用せず DEAR サイト内で運営した
寄付数	94 名(101 件)
合計	1,282,000 円

4) 40 周年記念事業 ★40 周年記念事業

40 周年を機に、年間を通じて以下の事業を実施した。40 周年記念フォーラムでは、10 年を振り返ったうえで、ビジョン、ミッションと5つの目標、バリューを発表した。その後に行った交流会には、長年 DEAR 関わっている方から、新しい方までが一堂に会し、共に40周年を祝うことができた。

- ・ 記念ロゴ、特設サイトの作成
- ・ 地域で広げ・つなげる開発教育 実践者に聞クリレートーク(6月～11月)
- ・ 機関誌『開発教育』40周年特別号
- ・ 開発教育 実践共有オンラインキャラバン(～12月)
- ・ 40周年記念フォーラム&交流会(日時:12月9日、会場:オンライン、参加:約100名)
- ・ 未来につなぐ開発教育-DEAR40周年記念募金(～3月)
- ・ 新教材『18歳成人とキャリア教育:グローバル社会で「おとなになる」を考える』作成(発行は2023年4月)

5) 組織基盤強化

40周年を迎えるのを機に、DEARのビジョン、ミッションの見直し、バリューの新設、5つの目標の見直しなどを、理事会やR-CAMPですすめ、12月9日の40周年記念フォーラムで発表した。

また、事務局員の待遇改善のために、給与規程の見直しなどを行った。

以上

処務の概要

1) 会員に関する事項

2023年3月末現在の会員数は、次の通り。ただし、括弧内は昨年末比の数字。

- 正会員 団体 21団体(+2団体)
 個人 369名(-12名)
- 賛助会員 団体 18団体(-2団体)
 個人 240名(-23名)
 (内学生会員:12名/-6名)
- <参考> 団体会員 39団体(±0団体)
 個人会員 609名(-35名)



2) 役員に関する事項

註: 役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです。

●代表理事

湯本浩之(宇都宮大学)

●副代表理事

近藤牧子(大学非常勤講師)

佐藤友紀(大学非常勤講師)

●常任理事

阿部秀樹(会社員)

阿部眞理子(認定NPO法人IVY)

前嶋 葵(NPO法人コモンビート)

松倉紗野香(中学校教員)

●理事

石川一喜(拓殖大学)

片岡麻里(公益社団法人ガールスカウト日本連盟)

上條直美(フェリス女学院大学ボランティアセンター)

坂口和隆(認定NPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会)

奈良崎文乃(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)

西川千佳子(マーケティングパートナー)

西平久美子(NPO法人ハンガー・フリー・ワールド)

三宅隆史(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会/教育協力NGOネットワーク)

中村絵乃(認定NPO法人開発教育協会)

●監事

田中治彦(上智大学)

山崎唯司(団体役員)

●顧問

岩崎裕保(NPO法人関西NGO協議会)

●評議員

青山由衣(公務員)

秋山映美(NPO法人監獄人権センター)

岡 秀樹(志のぶ幼稚園)

小口瑛子(学校職員)

加藤英嗣(小学校教員)

逆瀬川愛貴子(東京大学大学院)

鈴木洋一(Wake Up Japan)

高階悠輔(認定NPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会)

田中 滋(NPO法人アジア太平洋資料センター)

南雲勇多(東日本国際大学)
永田賢介(認定NPO法人アカツキ)
西山典仁(マーケティングパートナー)
古沢広祐(NPO法人「環境・持続社会」研究センター)
星久美子(公益財団法人かながわ国際交流財団)
山本康夫(ふくいグローバルねっとわーく)

3) 会員総会に関する事項

2022年度定期会員総会

日時:2022年5月28日(土)

会場:オンライン

<第1部>13:00~14:30

ワークショップ「18歳成人と市民教育」

<第2部> 15:00~16:00

2022年度定期会員総会

<議案審議>

- 1)2021年度事業報告および決算報告について
- 2)2022-23年度役員候補者について

<報告>

- 1)2022-26年度中期方針・中期計画について
- 2)DEAR SDGs基本方針(2022-26年度)
- 3)2022年度事業計画および予算について
- 4)意見交流会

4) 理事会に関する事項

●第1回理事会

日時:2022年5月28日(土)16:45~17:45

会場:オンライン

議案:

1. 代表・副代表・常任理事等の選任
2. 各種委員会の設置及び委員選任
3. 業務委託事業について
4. ESD活動支援センター運営委員について

●第2回理事会

日時:2022年10月22日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議案:

1. 上半期事業報告・決算報告・下半期事業計画
VMVO(ビジョン・ミッション・バリュー・5つの目標)
2. について

3. 40周年事業について
4. 海外出張ガイドラインについて

●第3回理事会

日時:2023年3月4日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議案:

1. 2022年度の事業報告・決算見込報告
2. 2023年度事業計画・予算
3. 事務局職員の異動について

●第4回理事会

日時:2023年4月22日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議案:

1. 2022年度の事業報告・決算報告
2. 2023年度事業計画・予算
3. 人事について
4. 給与規程の改訂について
5. 2023年度会員総会について

5) 評議員会に関する事項

●第1回評議員・理事合同会議

日時:2022年9月10日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議題:

<第1部 評議員会>

1. DEAR 報告

<第2部 報告・課題提起>

- ①世界食料デーについて(西平理事)
- ②NPOのファンドレイジングについて(永田評議員)

6) 2022年度事業評価・2023年度計画会議

2022年度の事業評価と、2023年度の事業計画を共有し、議論した。

日時:2022年2月11日(土)13:00~17:00

会場:オンライン

議題:

- ・2022年度事業評価
- ・2023年度事業計画

7) 理事合同合宿(R-CAMP)

理事をはじめ役職員同士が相互に知り合い、DEARの役割を共有しあう場としてR-CAMPを2回、オンラインで開催した。

<第1回R-CAMP>

日時:2022年6月25日(土)13:00~16:00

①DEAR報告

②グループワーク

・VMVOについて、5つの目標について

<第2回R-CAMP>

日時:2023年1月22日(土)13:00~16:00

①DEAR報告

②40周年記念募金アイデア出し

③開発教育について考える

④教材作成について

8) 各種委員会に関する事項

本年度は、次のような各種委員会が理事会内に設置され、当会の運営や事業について協議を行った。

(註:各種委員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

①DEAR大阪運営委員

委員長:佐藤友紀(大学講師)

委員:岩崎裕保(関西NGO協議会)／大森容子(滋賀県国際協会)／談儀善弘(高校教員)／榛木恵子(聖和共働福祉会)／丸山まり子(地球市民フォーラムなら)／中道愛子(神戸YMCA)／三輪敦子(アジア・太平洋人権情報センター)

②機関誌「開発教育」編集委員会・査読委員会

青沼由衣(公務員)、小貫仁(多文化共生運動)、小野行雄(草の根援助運動)、上條直美(フェリス女学院大学)、木村万里子(日本国際ボランティアセンター)、近藤牧子(大学非常勤講師)、佐渡友哲(日本大学)、重田康博(宇都宮大学)、田中治彦(上智大学)、奈良崎文乃(国際NGOプラン・インターナショナル)、二ノ宮リムさち(東海大学)、野口扶美子(国連大学)、真加部湧大(Soka International School Malaysia)、

三輪敦子(アジア・太平洋人権情報センター)、山中信幸(川崎医療福祉大学)、湯本浩之(宇都宮大学)、中村絵乃・岩岡由季子(DEAR)

9) プロジェクト・チームに関する事項

本年度は、以下のような研究会やプロジェクト・チームが設置され、各事業や活動の企画運営にあたった。(註:役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

<研究会・プロジェクト・チーム>

①SDGs研究会

氏井紅葉(上智大学)、上條直美(フェリス女学院大学ボランティアセンター)、近藤牧子(大学非常勤講師)、田中治彦(上智大学)、松倉紗野香(中学校教員)、本山明(大学非常勤講師)、湯本浩之(宇都宮大学)、伊藤容子・中村絵乃(DEAR)

②ファシリテーション研究会

阿部真理子(IVY)、上條直美(フェリス女学院大学)、近藤牧子(大学非常勤講師)、松倉紗野香(中学校教員)、谷田なつ美(小学校教員)、山中信幸(川崎医療福祉大学)、山本敬典(中学校教員)、山本康夫(団体職員)、伊藤容子・岩岡由季子・中村絵乃(DEAR)

③d-lab2022(第40回開発教育全国研究集会)実行委員会

加藤英嗣(小学校教員)、木下智実(小学校教員)、木村明日美(団体職員)、佐藤友紀(DEAR理事)、鈴木洋一(DEAR評議員)、土戸友理香(大学生)、登島おりは(大学生)、西平久美子(DEAR理事)、秦さやか(小学校教員)、松倉紗野香(中学校教員)、三宅隆史(DEAR理事)、本山明(大学講師)、山本康夫(DEAR評議員)、中村絵乃・八木亜紀子・伊藤容子・岩岡由季子(DEAR)

④「開発教育入門講座」チーム

大野のどか(シェアスペースオーナー)、小口瑛子(学校職員)、川田雅俊(学校教員)、定光香(リーダー／会社員)、福島智子(団体職員)、田中浩平(団体職員)、土戸友理香(大学生)、萩原菜月(大学院生)、

原麻衣(会社員)、林まりな(個人)、宮原契子(団体職員)、山本敬典(中学校教員)、岩岡由季子・八木亜紀子(DEAR)

⑤会報「DEARニュース」編集委員会

阿部秀樹(リーダー/会社員)、佐藤友梨(会社員)、須磨珠樹(会社員)、陣野俊彦(高校教員)、高橋瑞季(会社員)、高橋博文(会社員)、滝本雅章(事務局ボランティア)、田中祥一(高校教員)、出口雅子(団体職員)、中園真由美(個人)、林美帆(団体職員)、八木亜紀子(DEAR)

⑥「学びあい」コーディネーターチーム

阿部眞理子(IVY)、大野のどか(八王子市民のがっこうまなび・つなぐ広場)、佐藤友紀(高校教員)、関愛(いがたNGOネットワーク国際教育研究会RING)、南雲勇多(東日本国際大学)、西あい(学びあい事業コーディネーター)、山西優二(早稲田大学)、伊藤容子・中村絵乃(DEAR)

⑦ジェンダー研究会

片岡麻里(ガールスカウト日本連盟)、木村明日美(JICA千葉デスク)、小口佳那子(DEARボランティア)、近藤牧子(大学非常勤講師)、三輪敦子(一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター)、奈良崎文乃(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)、伊藤容子・岩岡由季子・中村絵乃・牧啓太(DEAR)

⑧ALEプロジェクト・チーム

片岡麻里(ガールスカウト日本連盟)、上條直美(フェリス女学院大学)、大安喜一(ユネスコ・アジア文化センター)、小荒井理恵(教育協力NGOネットワーク)、近藤牧子(大学非常勤講師)、三宅隆史(教育協力NGOネットワーク)、湯本浩之(宇都宮大学)、伊藤容子・中村絵乃・牧啓太(DEAR)

⑨40周年募金等検討チーム

阿部秀樹(会社員)、高階悠輔(団体職員)、奈良崎文乃(団体職員)、西川千佳子(会社員)、西平久美子(団体職員)、西山典仁(会社員)、前嶋葵(団体職員)、伊藤容子・岩岡由季子・牧啓太・中村絵乃・八木亜紀子

(DEAR)

10)職員に関する事項

事務局長	中村 絵乃(有給・常勤・専従)
事業主任	八木 亜紀子(有給・常勤・専従)
事業担当	伊藤 容子(有給・常勤・専従)
事業担当	岩岡由季子(有給・常勤・専従)
経理・総務担当	牧 啓太(有給・常勤・専従)
書籍担当	若松 陽子(有給・非常勤・嘱託)

11)インターン・ボランティアに関する事項

今年度参加したインターン・ボランティアは次の通り。

<事務局ボランティア>

滝本雅章(社会人、2007年11月～継続)
氏井紅葉(学生、2018年8月～継続)
小口佳那子(学生、2020年6月～継続)
土戸友理香(学生、2021年5月～継続)
森田碧海(学生、2021年7月～継続)
登島おりは(学生、2022年4月～継続)
荘奈緒里(会社員、2022年8月～継続)
伊藤聖矢(会社員、2023年2月～継続)

<フリースペースえん 講師派遣ボランティア>

久保井奈美(社会人)
西脇さやか(劇あそび・表現教育ファシリテーター)
星久美子(元DEAR職員)
谷田なつ美(小学校教員)
和田寿一(社会人)
進藤夏葉(社会人)

また、d-lab2022(第40回開発教育全国研究集会)には2名、教材体験フェスタには9名のボランティアが参加した。

12)会員団体に関する事項

DEARが正会員として参加した団体は次の通り。

- ・ アジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE)
- ・ 認定NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)
- ・ 教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・ 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク

資料1: メディア掲載・取材協力など

<新聞>

①仏教タイムス(2022年4月21日)

宗派を問わない伝統仏教・新宗教の専門紙「仏教タイムス」に事務局長の中村が登壇したセミナー「お寺と100年後の未来」第3回『お寺とジェンダーその新しいカタチとは?』(主催:アユス仏教国際協力ネットワーク)のレポートが掲載された。

<雑誌>

①月刊誌『教育』No.920(2022年9月号)

発行:教育科学研究会

「特別企画:SDGs・気候危機に取り組む教育を」に代表理事の湯本が「持続可能な開発のための学び」を、また、会員の本山明さんが「私の服をつくる人に思いを寄せる」を寄稿した。

<書籍>

①『よくわかる開発学(やわらかアカデミズム・わかる)シリーズ』(2022年10月)

発行:ミネルヴァ書房

大森佐和・西村幹子編集の『よくわかる開発学』で代表理事の湯本浩之が「開発教育」の節を執筆した。

②『世界の社会福祉年鑑 2022』(2022年11月)

発行:旬報社

宇佐美耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編集の『世界の社会福祉年鑑 2022』で代表理事の湯本浩之が「第2部・国際社会福祉」にてDEARの活動について執筆した。

③『テーマで探究 世界の食・農林漁業・環境2 ほんとうのサステナビリティってなに? 食と農のSDGs』(2023年3月)

発行:農文協

関根佳恵編著の『ほんとうのサステナビリティってなに? 食と農のSDGs』に事業主任の八木亜紀子がコラムを2本(認証の向こう側ーパーム油学習で考えたいこと/アブラヤシ・プランテーション開発の進むボルネオで)執筆した。

<ウェブサイト>

①日経BP・未来コトハジメNEWS

(2022年8月25日)

日経BP社発行のメールマガジン「未来コトハジメNEWS」に事業主任の八木亜紀子がコラム「子ども・ユースとともにSDG4(教育目標)の達成を政策提言」を寄稿しました。DEARが事務局を務めた「SDG4 教育キャンペーン」の活動についてご紹介した。

※コラムはSDGs市民社会ネットワークのウェブサイトにも掲載された。

②「社員による社会貢献」ベネッセホールディングス株式会社

会報「DEAR News」編集チーム・メンバーとして活動する高橋瑞季さん(ボランティア)のエッセイが「社員による社会貢献」として掲載された。



資料 2: 「名義後援・協力」の実績一覧 (計 11 件)

<後援名義>

- ①立正佼成会
「青年の日」
- ②独立行政法人国際協力機構
「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2022」
- ③公益財団法人滋賀県国際協会
「国際教育教材体験フェア in 滋賀 2022」
- ④公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー 関西
セミナーハウス活動センター
「2022 年度開発教育セミナー」(全6回)
- ⑤NPO法人関西NGO協議会
「ワン・ワールド・フェスティバル for YOUTH
2022～私たちの描く持続可能な社会の未来図～」
- ⑥公益財団法人滋賀県国際協会
「2022 年度国際教育ワークショップ 地球市民を
地域とともに育てよう part 21『平和って、な

んだろう？ねこのポーポキと一緒にかんがえよう』」

⑦独立行政法人国際協力機構関西センター
「開発教育・国際教育セミナー 豊かさと開発」

⑧NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
「Change Makers Fes 2022 オンラインパーティー
～誰かのために動く、キミのための日」

<協力名義>

- ①独立行政法人国際協力機構関西センター
「2022 年度開発教育・国際教育セミナー入門編」
- ②NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
「Change Makers Fes 2023～世界を変えるキミ
に、この日を～」
- ③独立行政法人国際協力機構関西センター
「2022 年度開発教育・国際教育セミナー実践編
身近な人とともに築く多文化共生社会～私の一
歩～」

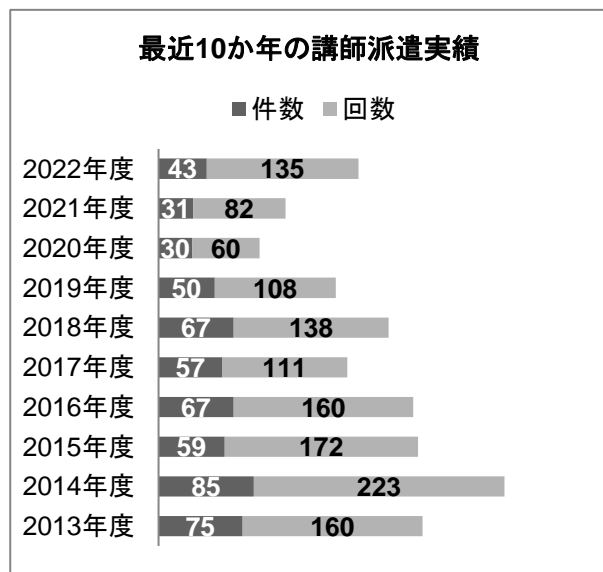
資料 3: 他団体への「賛同・協賛」の実績一覧 (計7件)

<賛同>

- ①NPO 法人ハンガー・フリー・ワールド
「世界食料デー月間 2022」(2022 年8月5日)
- ②NPO 法人日本国際ボランティアセンター(JVC)
「イスラエル・ガザへの停戦継続に向けて 要請文」
(2022 年8月 25 日)
- ③NGO・外務省提起協議会 ODA 政策協議会
NGO[側コーディネーター一同、連携推進委員会
NGO 側連携推進委員一同
「開発協力大綱改定に対する NGO 要望書」
(2022 年 10 月 18 日)
- ④NPO 法人国際協力 NGO センター(JANIC)
「JANIC 憲章」(2022 年 11 月 29 日)

- ⑤NPO 法人日本国際ボランティアセンター(JVC)
「声明 戦争ができる国づくりのため他国へ武器援助
させ実施する『安保3文書』に反対します」
(2023 年1月 11 日)
- ⑥NPO 法人国際協力 NGO センター(JANIC)他
「開発協力大綱に関する市民社会ネットワーク立ち
上げ」(2023 年2月3日)
- ⑦公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパ
ン
「G7サミットに向けた開発協力分野のジェンダー政
策に係る要望書」(2023 年3月 30 日)

資料 4:「講師派遣」の実績一覧 (計 43 件 135 回)



1 「国際交流ボランティアのためのファシリテーション講座」(2022/5/28/計 2 回)

主催：一般財団法人国際都市おおた協会

内容：ファシリテーション

対象：団体・ボランティア・インターン

派遣者：中村絵乃（事務局長）

実施形態：対面

2 「国際セミナーワークショップ」

(2022/6/12/計 4 回)

主催：鎌倉女学院中学校・高等学校

内容：パーム油、コーヒー

対象：高校生

派遣者：伊藤容子（事業担当）、岩岡由季子（事業担当）

実施形態：対面

3 「東洋大生がワークショップで考える SDGs」

(2022/6/16/計 1 回)

主催：東洋大学

内容：パーム油

対象：大学生

派遣者：岩岡由季子（事業担当）

実施形態：オンライン

4 「総合的な学習の時間」(2022/7/1,8/計 8 回)

主催：千代田区立九段中学校

内容：ファッション

対象：中学生

派遣者：中村絵乃（事務局長）、八木亜紀子（事業主任）、伊藤容子（事業担当）、岩岡由季子（事業担当）、大野のどか（入門講座タスクチーム）、鈴木啓美（教材作成チーム）

実施形態：対面

5 「SDGs ワークショップ」(2022/7/5/計 1 回)

主催：日本体育大学

内容：貿易ゲーム

対象：大学生

派遣者：伊藤容子（事業担当）

実施形態：対面

6 「CLUB GEORDIE 内部開発事業」

(2022/7/6/計 1 回)

主催：国際交流・国際協力支援団体 CLUB GEORDIE

内容：SDG4 教育キャンペーン

対象：大学生

派遣者：伊藤容子（事業担当）

実施形態：オンライン

7 「新入職員学校」

(2022/6/14,15,7/20,21,8/18,19,12/14,15/計 8 回)

主催：神奈川県民生医療機関連合会

内容：子どもの貧困を考える

対象：医療従事者

派遣者：中村絵乃（事務局長）、伊藤容子（事業担当）、岩岡由季子（事業担当）

実施形態：オンライン

8 「開発教育国際教育セミナー2022 入門編」

(2022/7/29/計 1 回)

主催：JICA 関西

内容：ファッション

対象：教員・教育関係者

派遣者：佐藤友紀（副代表理事）

実施形態：対面

9 「教員研修 in JICA 帯広」(2022/7/30/計 1 回)

主催：JICA 帯広

内容：豊かさと開発

対象：教員・教育関係者

派遣者：中村絵乃（事務局長）
実施形態：オンライン

10 「長門市連携ワークショップ」

(2022/8/1,2/計2回)

主催：角川ドワンゴ学園

内容：プラごみ

対象：高校生

派遣者：八木亜紀子（事業主任）

実施形態：オンライン

11 「関西学院世界市民明石塾」(2022/8/2/計1回)

主催：関西学院大学

内容：パーム油/SDGs

対象：高校生

派遣者：伊藤容子（事業担当）

実施形態：オンライン

12 「人権教育 ブロック研修会」(2022/8/2/計1回)

主催：奈良県桜井市立大三輪中学校

内容：さまざまな視点に立って考えるために（4つのアクティビティ体験）

対象：教員・教育関係者

派遣者：佐藤友紀（副代表理事）

実施形態：対面

13 「コミュニケーションワークショップ」

(2022/9/13,27/計2回)

主催：学校法人平和学園

内容：対立から学ぶ・アサーション

対象：中学生

派遣者：中村絵乃（事務局長）

実施形態：対面

14 「消費者教育研修会」(2022/8/26/計1回)

主催：奈良県消費生活センター

内容：ファッション

対象：教員・教育関係者

派遣者：八木亜紀子（事業主任）

実施形態：オンライン

15 「Global Workshop A」(2022/9/3/計1回)

主催：ノートルダム女学院高等学校

内容：100人村

対象：高校生

派遣者：佐藤友紀（副代表理事）

実施形態：対面

16 「グローバルラボ」(2022/9/16/計2回)

主催：甲南高等学校・中学校

内容：貿易ゲーム

対象：中学生

派遣者：佐藤友紀（副代表理事）

実施形態：対面

17 「東洋大学 SDGs講座」(2022/9/30/計1回)

主催：東洋大学

内容：SDGs

対象：大学生

派遣者：八木亜紀子（事業主任）

実施形態：オンライン

18 「あらかわエコジュニアクラブ」

(2022/10/1/計1回)

主催：荒川区役所

内容：気候変動

対象：小学生

派遣者：中村絵乃（事務局長）

実施形態：対面

19 「国際科ワークショップ」(2022/10/5/計1回)

主催：川崎市立橘高等学校

内容：メディアリテラシー（GE）

対象：高校生

派遣者：八木亜紀子（事業主任）

実施形態：対面

20 「指導者育成研修」

(2022/10/9,10,23/1/14,15/計4回)

主催：沖縄NGOセンター

内容：パーム油、対立、難民、教材作成など

対象：教員・教育関係者

派遣者：中村絵乃（事務局長）、岩岡由季子（事業担当）

実施形態：対面

21 「SDGsワークショップ」(2022/10/11/計1回)

主催：日本体育大学

内容：ファッション

対象：大学生

派遣者：伊藤容子
実施形態：対面

派遣者：佐藤友紀（副代表理事）
実施形態：対面

22 「社会薬学 1」(2022/10/13／計 1 回)

主催：横浜薬科大学
内容：パーム油
対象：大学生
派遣者：伊藤容子（事業担当）
実施形態：オンライン

28 「龍谷大学「国際 NGO 論」

(2022/12/14／計 1 回)
主催：関西 NGO 協議会
内容：スマホ
対象：大学生
派遣者：佐藤友紀（副代表理事）
実施形態：対面

23 「Class Net2022」(2022/10/18,25／計 2 回)

主催：ASEF
内容：気候変動教育
対象：アジアヨーロッパの教員・教育関係者
派遣者：中村絵乃（事務局長）、伊藤容子（事業担当）
実施形態：オンライン

29 「グローバルワークショップ」

(2022/12/14／計 1 回)
主催：サレジアン国際学園中学高等学校
内容：地球の食卓
対象：中学生
派遣者：八木亜紀子（事業主任）
実施形態：対面

24 「スタッフ研修ステップⅡ 講義「コロナ禍で考える

SDGs ワークショップ」(2022/10/21／計 1 回)
主催：日本 Y M C A 同盟
内容：SDG s
対象：NGO・団体職員
派遣者：中村絵乃（事務局長）
実施形態：オンライン

30 「寄付強化月間キックオフセミナー「SDGs の解像度をあげる」(2022/12/17／計 1 回)

主催：アーユス仏教国際協力ネットワーク
内容：SDG s パネル
対象：一般・不特定の市民
派遣者：中村絵乃（事務局長）
実施形態：オンライン

25 「青少年国際理解出前講座」

(2022/10/25／計 1 回)
主催：大阪国際交流センター
内容：100 人村
対象：小学生
派遣者：佐藤友紀（副代表理事）
実施形態：対面

31 「NGO」(2022/12/22／計 1 回)

主催：沖縄 NGO センター
内容：問いづくり
対象：教員・教育関係者
派遣者：中村絵乃（事務局長）
実施形態：オンライン

26 「SDGs ワークショップ」(2022/11/15／計 1 回)

主催：日本体育大学
内容：プラごみ
対象：大学生
派遣者：伊藤容子（事業担当）
実施形態：対面

32 「国際理解教育セミナー 道東地域から SDGs を考えよう」(2022/12/26／計 1 回)

主催：JICA 帯広
内容：豊かさと開発
対象：教員・教育関係者
派遣者：中村絵乃（事務局長）
実施形態：オンライン

27 「グローバルラボ」(2022/11/26／計 2 回)

主催：甲南高等学校・中学校
内容：100 人村
対象：中学生

33 「いじめ防止教育」(2023/1/17／計 1 回)

主催：名古屋市教育委員会
内容：対立から学ぶワークショップ

対象：教員・教育関係者

派遣者：中村絵乃（事務局長）

実施形態：対面

34 「開発教育セミナー実践編「身近な人とともに築く多文化共生社会 ～私の一歩～」

(2023/1/28／計 1 回)

主催：JICA 関西

内容：難民ワークショップ

対象：教員・教育関係者

派遣者：佐藤友紀（副代表理事）

実施形態：対面

35 「男女共同参画講座「アンコンシャスバイアスってなに？」」(2023/2/18／計 1 回)

主催：中央区女性ネットワーク

内容：ジェンダー

対象：一般・不特定の市民

派遣者：中村絵乃（事務局長）、岩岡由季子（事業担当）

実施形態：対面

36 「専門系教科研究会ワークショップ」

(2023/2/25／計 1 回)

主催：法人東京私立中学高等学校協会

内容：ファッション

対象：教員・教育関係者

派遣者：八木亜紀子（事業主任）

実施形態：対面

37 「国際女性デーに公平な地球社会を考える」

(2023/3/4／計 1 回)

主催：港区立男女平等参画センター

内容：100 人村

対象：一般・不特定の市民

派遣者：八木亜紀子（事業主任）

実施形態：対面

38 「ファシリテーション研修」(2023/3/30／計 1 回)

主催：長浜バイオ大学

内容：ファシリテーション

対象：大学生

派遣者：伊藤容子（事業担当）

実施形態：対面

39 「ともに生きる」(2022/9～23/3／計 5 回)

主催：フリースペースえん

内容：気候変動、世界一周、ゲストトーク

対象：子ども・大人

派遣者：中村絵乃（事務局長）、岩岡由季子（事業担当）

実施形態：対面

40 「展示を使ったワークショップ」

(2022/4～2023/3／計 35 回)

主催：聖心女子大学

内容：ジェンダー、難民、気候変動

対象：大学生

派遣者：中村絵乃（事務局長）、八木亜紀子（事業主任）、伊藤容子（事業担当）、岩岡由季子（事業担当）

実施形態：オンライン

41 「SDGsについて考える」(2023/3/15／計 1 回)

主催：世田谷区立玉川中学校

内容：100 人村

対象：中学生

派遣者：中村絵乃（事務局長）、伊藤容子（事業担当）、登島おりは（ボランティア）

実施形態：対面

42 「市民活動論」(2022/4～9／計 15 回)

主催：早稲田大学

内容：市民活動論

対象：大学生

派遣者：中村絵乃（事務局長）

実施形態：対面

43 「多文化コミュニケーションデザイン」(2022/10～23/1／計 15 回)

主催：東京女子大学

内容：多文化コミュニケーションデザイン

対象：大学生

派遣者：中村絵乃（事務局長）

実施形態：対面

以上